

1. 日時 令和6年3月8日 10:00~12:00
2. 場所 日本児童教育専門学校 A21 教室
3. 委員等氏名及び所属

【委員長】

花村 嘉信 株式会社 NOTCH 代表取締役

【委員】

請川 滋大 日本女子大学家政学部児童学科 教授

遠藤 祐太郎 有限会社ビネバル出版/北欧留学情報センター

【陪席】

大河 芙美様 株式会社 Kids Smile Project 保育事業ユニット 担当部長

桑原 洋一 株式会社どろんこ会 運営本部 本部長

(代理：青木利津)

佐久間貴子 株式会社ベネッセスタイルケア こども・子育て支援カンパニー 保育・学童事業推進本部

(代理：前重仁美)

中山 利彦 社会福祉法人省我会 新宿せいが子ども園 副園長

藤田ひとみ 株式会社こどもの森 まなびの森保育園幡ヶ谷 園長

阿久津 摂 日本児童教育専門学校 副校長

中西 和子 日本児童教育専門学校 教務部長・保育福祉科学科長

鈴木 八重子 日本児童教育専門学校 総合子ども学科学科長

東郷 結香 日本児童教育専門学校 保育福祉科昼間コース長

【事務局】

佐藤貴彦、谷村明門、芝井華子、鈴木顕典、武田眞祐美

◆議事要約◆

1、副校長挨拶

阿久津副校長より開催にあたっての挨拶

2、委員長挨拶

花村委員長より、進行役を務めること。本日の流れについて説明した。

3、「人材育成構想図・カリキュラムマップ」について

中西教務部長より、人材育成構想図・カリキュラムマップについて発表した。

4、「実習評価票」等について

事務局芝井より、実習評価票の再改定と中間振り返り表・実習日誌について説明・報告をした。

5、「総合子ども学科の取り組み(職場体験)」について

事務局谷村より総合子ども学科の職場体験について説明した。

6、「今後の産学連携」について

事務局谷村より説明した。

7、意見交換

本校の取組について、委員の方よりご意見をいただいた。

8、副校長より

次年度からは「学校関係者評価委員会」と「教育課程編成委員会」をそれぞれ別で開催することを表明した。

<「人材育成構想図・カリキュラムマップ」について>

◆ 中山委員

このようなマップをしっかりと作成して、学生の学びを充実させようとしている事が良くわかる内容になっている。カリキュラムポリシーの浸透において分野別会議は非常に有効だと認識している。

◆ 大河委員

非常勤講師として授業している立場から、構築されているなど感じた。その中で非常勤講師と専任講師の密な連携という所に来年度踏み込んでいただければクラス情報のやりとりもできて助かる。

◆ 藤田委員

学生はカリキュラムマップをどこで確認するのか? <<←中西より:学生便覧で確認する>>

何のために何を学んでいるのかわかりやすく示していることで、学生が主体的に学べる良い取り組みだと思う。

◆ 前重委員

非常勤講師と専任講師とが連携を取るというところが、学生の学校への信頼感に繋がると感じた。

◆ 青木委員

入学から卒業まで、何をどう学ぶのか見える化されていて良いと思った。カリキュラムポリシーもどのカリキュラムがどのような力を育むのか、この表がわかりやすいと思ったので、社内でも参考にしたい。

◆ 遠藤委員

非常勤講師の立場から言うと、クラスによって属性の違いがあるのでどう教えていけばいいのか手探りな部分がある。情報共有できると、このプランがより良くなると思った。学生は見通しが持てて学びが楽しみになると思う。力の中に、社会人としての基本などあるが、もっとピンポイントに“社会人としては何”といったところが明確になるとよい。

◆ 花村委員長

授業アンケートを活用し学生の声拾っているのは非常に良いと思う。産学連携がポイントになってくると感じている。他校の取り組みで、食育カルタを作って現場で使ってもらったり、絵本のワークショップを授業に組み込んでそこで作成した絵本を現場で使ってもらったりしている。実習でも使えるようなワークを組み立てて、現場と連携していく取り組みも出てきているので、そういった情報を収集しながら協力していきたい。

◆ 請川委員

よく考えられていると思う。正課と正課外活動を通して学生を養成していくというのが良い。正課外活動にあるオープンタイムというのは何ですか? <<←中西より:だれでも参加できるように授業時間外にピアノレッスンや公務員対策などの講座を自由参加で設けている>>手厚くていいですね。もう一つ、学生からの意見を取り入れる

というのがよいと思ったが、学生は様々なアンケートに埋もれてしまって飽き飽きしている。回答率を上げて実のある回答を得るための工夫をしているのか？ <<←中西より：それは共通の課題で、来年に向けて工夫しなければいけないと思っている>>

<「実習評価票」等について>

◆ 請川委員

コンパクトにまとまっていて良い。生活の流れのところは日々そんなに変わらないので、前半は流れを把握する必要があるが後半は子どもの様子やエピソードを中心にするなど、柔軟に使用できるとよい。環境図も大きくは変わらないので、毎日手書きするのではなくコピーの貼り付けを可とするなど効率化の工夫が必要。先生からのコメント欄が結構多いと感じたが、園から不満などの意見はなかったのか？ <<←中西より：コメント欄が多いのは最後のまとめのページだけなので特にご意見はいただいていない。細かい文字でびっしり記入のある園もあれば少ないコメントの園もあり様々>>

◆ 花村委員長

事業者の視点・学生の視点、そのマッチングという視点で質問と共有をしたい。

事前に事業者とのオリエンテーションはしていますか？ <<←芝井より：学生が実習先に出向いて実施して頂いている>>

他校では、実習に行って心折れてしまう学生が増えていて、受け入れの仕方にとまどう事業者が増えているので、指導の内容とか要望を棚卸ししているところが少しずつ増えてきている印象がある。学校によっては現場に行つて「こういうふうにご指導しているの、こういうふうに見て評価してください」と、先生から要望を卸しに行つているところもある。事業者からすると、例えば項目にある「子どものかかわりを通し発達過程について理解できている」をみて、どの様な視点でどう評価すればよいのか戸惑うこともあるようだ。そういったところも可能であれば検討するとよいのではないかと。

負担をどれだけ減らすことが出来るか各校取り組まれているなかで、手書きは必須なのでしょうか？ Word などでも良いのでしょうか？ <<←中西より：特に明示してはいませんが Word などでも可能だと考えています>>

事業者の考えもあると思いますが、今どきの学生は手書きが苦手な夜なべして泣きながら次の日を迎える…。それで嫌になってしまう学生もいるようなので、事業者から電子化していいですよと言つていただければいいですが、学校側からも少しずつ依頼をしているという印象もある。こちらも検討するとよいのではないかと。

実習後の振り返り面談などはされていると思いますが、学生さんが行つてみて何が困つたかの書き出しをするとよい。例えばシートを使って、つらつらとここが嫌だ！とか書き込ませると学生の本音が出て、ねばならないから解放されてできなかったことを先生たちとシェアできたことで、次の指導に生かせるのではないかと感じた。

◆ 遠藤委員

保育実習日誌を書くことがメインになってしまつて、現場にいてもそのことばかりで頭がいっぱいになってしまつて勿体ないと感じている。実習に行くというのは子どもと触れ合つたり、勉強したことがどこまでできるのかとか、先生はどんなことをしているのかなといったことが一番のメインだと私は感じている。日誌で時間がかかつてしまうのは勿体ない。日誌の書き方は園によってルールがあつて、例えば保育中は記録を書いてはダメ頭で覚えろなどという昭和な考えの方も現場には多くいるというのが現状。メインは子どもと触れ合うことなので、子どもがどんなことをしたのかをメインに書いた方がいいと思う。なお且つ、日誌はこう書くといいよ、ここが大切だよと現場の先生が言つてあげられるとよいが、忙しい業務をしてさらにフォローしながら指導するのはなかなか難しい。

項目の知識・技術のところにある「子どものかかわりを通し発達過程について理解できている」というのは、かなりクオリティが高く、現場の人でも発達過程を十分に理解できずに対応してしまつている場面もあるので、柔軟に見てほしい。主体性とか自分から行動するというのも園の雰囲気によってはなかなか出来ないと思う。担当教員が実習先訪問をした時にフォローしてあげることも大事だと感じた。

◆ 青木委員

振り返りの観点を見て、学生がというよりも受け入れる側が理解をしていないといけないと感じた。園のスタッフのかかわりによって大きく左右されると思うので、園を運営する側として、どういう観点で評価するのかということを学校側と園とですり合わせをする必要があると感じた。

一部のクラスで実施したというのはトライアルということですか？ <<←中西より:はいそうです>>

それではこれをもって来年度広げていくということですね。 <<←中西より:はい>>

◆ 前重委員

私どもの園で活用されていましたので、現場の声を伝えたいと思う。実習日誌の印象に残ったエピソードというところが分かれていたのと、大切にしなければならない動きというところが学生にとって書きやすいのではないかという声が上がっていた。実習園としても学生がどこにポイントを置いて一日過ごしたのかが分かりやすく、フィードバックしやすかったと聞いている。中間振り返りについても、こういったものがあると見通しを持って指導できるし、途中で振り返ることで次にエールがおくれるのでやりやすかったと聞いている。

一方で、他は姿だけでチェックが出来るが、知識・技術のところの“理解できている”かどうかのチェックは正直難しい。理解できるように努めているということで良しとしておこうという話が出ていた。

社会人としての基本のところだけは4項目を1つのまとまりでチェックするようになっているが、おそらく実習生では4つの項目すべてが1つに収まらないと思われるので、それぞれに分けてチェックできるようにした方が良いとの意見がでていた。

デイリーについては、省略だとか自由記述もできるようなので、工夫してもよいとの意見が出ている。

◆ 藤田委員

評価についてですが、学校としてどの程度できていると適切だと思っているのか、園としてどの程度できていると適切だと思うのかのすり合わせが出来ていない。中間振り返り票を見ても、「主体性」には適切であるにレ点が入っているのに、今後取り組むの欄にはもう少し主体的にかかわるといいですねと書かれている。学生は出来ているにチェックをもらおうとこのままでいいんだという受け止めをするが、コメントでもっと取り組んでくださいと書かれると、今できていると思ったけどまだ足りない？ やっぱり出来ていないっていうこと？ というように受け止めにバラツキがある。実習園としては、適切か努力を要するかのどちらかに付けるとなると、まだ後半が残っているので努力を要するに付けてしまうと落ち込んでしまうかなどと気にして、適切であるにしておこうという判断になりがち。学校として、前半ならこれくらい出来ていたら適切という判断をしてほしいとか、このくらいのことは出来るという指導をしているということを伝えて頂き、判断する基準の軸が出来あがったほうが園としても評価しやすい。どうしてもチェックする職員によって評価にバラツキが出てしまったりする。学校としての判断基準の軸を事前にオリエンテーションなどで伝えていただけると園としても統一の考えで評価が出来る。

実習日誌のフォームは学校によって様々だが、日誌の書き方について学校と直接話をする機会はない。日誌のフォームを見て初めて、この学校は子どもの様子を細かく書くように求められているからからその部分が書けていないとダメなのかなといった判断になる。事前に指導項目の共有ができていると、どこをメインに指導したらよいか明確になり指導しやすい。一回目の実習日誌は、将来責任実習をする際に参考になるような記録を残して、活用できるとよいと思う。現場に出たときに見返せるような日誌がいいのか、学校としてどんなことを記録に残しておきたいのかを共有して頂けると、どの職員も同じ視点できめ細やかな指導が可能になる。

◆ 大河委員

実習評価票に向かって実習をしていくという認識で間違えないですね？ となると、評価票と日誌がリンクしてこないと感じた。評価票の項目はそうとうハードルが高いと感じたので、この日誌では、学生がどこまで身につけていったのかを読み解くのは難しい。この日誌を見ると一日の流れをメインに感じ取るというのがこの学校の保育実習なんだなと判断するので、もっと評価票の項目とリンクさせる部分を日誌の中に盛り込んだ方が、評価票の項目に沿ったアドバイスが出来ると感じた。

オリエンテーションの内容にばらつきがあるので、マニュアル化を検討している。例えば一週間の実習計画を明示する中で、入るクラスやそのクラスの情報オリエンテーション時に共有することが出来れば、実習前に一日の流れをイメージしながら実習に臨めるのではないかと感じた。現場の先生方にそこまで求めるのは非常に大変ではあるが、実習生の評価をすることになるので重く受け止めている。評価していくにあたってのオリエンテーションのあり方を検討していきたいと考えている。学校としてオリエンテーションで確認すべき事項があるかと思うが、事前に共有して頂ければ前もって対応が可能なので、オリエンテーションでは再確認が出来、実習の入り口が柔らかくなるのではないかと感じた。

私の学生時代の日誌には、先生の行動や声掛けに対する気づきや疑問が書かれていて、それについて先生が赤ペンを入れてくださっている内容がとても参考になり、励みにもなる。何か疑問に思ったことや気づきを書く欄があってもいいのではないかと感じた。せっかくの実習日誌なので、「明日取り組みたいところ」が一行でもあると次の目標に繋がってよいのではないかと感じた。

評価する側から言わせて頂くと実習評価票と中間振り返り表は項目が同じなので、達成については評価票とするならば、中間振り返り表は2段階ではなく4段階くらいの方がチェックしやすいと感じた。評価する側が何をもちて評価したらいいのか難しいのが、知識・技術のところ。実習Ⅰの段階で学んできてほしい所はどこなのかをはっきりさせて、“理解できている”なのか“把握している”なのか“そのように努めている”なのか、文言を変えた方が実習Ⅱに繋がると感じた。

◆ 中山委員

実習日誌については、シンプルになったというのが率直な感想で、いいことだなと感じている。例えば複数実同じクラスならば2日目以降は“前日と流れは同じ”学生の省力化になる。後ろの“印象に残ったエピソード①・②”や“気づき”のようにまとめてあると、助言指導も書きやすいのでこのような構成は良いと思う。裏表一枚で終わってとてもシンプルでよい。

評価票については、知識・技術のところでは理解できているかどうかについては評価が難しい。チェックが2段階ではなく、せめて3段階が望ましい。評価票を付けるにあたっては、担当者だけではなくリーダーも集まって合意で評価をしているが、やはり3段階くらいの方が評価の判断がしやすい。中間振り返りは今までやったことがない。非常に丁寧で、後半に向けての適切な声掛けもできて良いと思うが、先生方が合意しなければならないのでその設定が課題となる。やりかたについてアドバイス頂けるとありがたい。産学連携とも連動すると思われるのでその点もよいと思う。項目の文言(理解できている・努めている等)については工夫してもよいと思う。

全ての書類に学校名が入っているが、中間振り返り表にだけ学校名がないのは何か意図があるのか? <<←芝井より:特にありません>>

<「総合子ども学科の取り組み(職場体験)」について >

◆ 請川委員

キャリア支援を担当しているので、大変興味深く感じた。この体験自体はすごく面白い。

2日間2コマ続きでの実施ですが、これは2ヶ所ですか? 同じ場所ですか? <<←谷村より:同じ場所を考えている>>

先ほどの通勤退勤を体験してみるとか休憩室をのぞいてみるのかというの、この時間帯の中で行うのですか?

<<←谷村より:出勤は難しいので退勤だけになります>>ということは、実際にその園の先生と一緒に退勤して駅まで行くということ? <<←谷村より:退勤後の寄り道を一緒に体験するという話が出た>>どういうところに寄り道

するのか? <<←谷村より:楽しいお店があるよとか、ここは美味しいよとか>>そういったことが案外学生にとっては有効かもしれない。相当、園の先生の協力が必要。<<←谷村より:はい>>

面白い取り組みだと感じる。

◆ 花村委員長

◆ 花村委員長

非常に良い取り組みだと思う。実施内容の案として、あと2つくらいの分類があると感じた。

「子どもとあそぶ」

「職員と話しをする」

「職員とあそぶ」研修のワークショップ等に参加させてもらう

「職員と一緒に子どもとあそぶ」先ほど紹介した食育カルタを持っていき職員も一緒にあそぶ
カテゴリーを増やしながらいろいろな意見をいただくと良い。

◆ 遠藤委員

実施する時間はこの時間(13:00 から)ですか? <<←谷村より:この時間帯になる可能性が高い>>

現場からするとこの時間帯は午睡中で、先生方は日誌の記入や連絡帳の記入とかで忙しい時間でもある。その中を割って入るのは難しいかもしれない。自分のプライベートや休憩時間を提供することになるのであればそれに見合った重要なテーマを持っていくことが必要。保育園は“体験”をする場ではないと感じている。結果的に子どもが好きだったを実感させるのは良いが、そもそも子どもが好きで学校に来ているはずなのにどうなんだろう。保育士の仕事は子どもが好きだからできる仕事ではなくて、社会貢献をしているということを知ってもらいたい。子どもの発育や発達に保育士に影響される。単に子どもが好きだったで終わるのではなく、保育士は社会貢献をしている、子どもの成長に保育士の役割は大きいということを知ってほしいと感じた。面白いアイデアなのでその辺の連携を取ってやっていくと良いと感じた。

◆ 青木委員

すでに保育実習Ⅰが終わった後に職場体験的なことをするというのはイメージがつかない。実習で心が折れてネガティブな感情を持ってしまった学生が、また子どもとあそんで職員の話聞いて…。というのは実習先ではない園でやるから意味があるということ? <<←谷村より:実習先と同じ園でも良いが、授業内でやるという前提だと時間帯が決まってしまうので、学校周辺の園になってしまう。>>実習で心が折れてしまった人も学校の近くに園で、もう一度そこを修正(ケア)して頂くということ? <<←谷村より:心折れてしまった学生についてはそうです。他にこうした方が良いなどの提案があれば聞かせて頂きたい>>

◆ 遠藤委員

これは先生も行くのか? <<←谷村より:まだ具体的には決めていない>>もし先生も一緒に行くのであれば、帰りの会だけを先生と一緒に仕切るのもよいと思う。何回か行って、慣れてきてから最後の日に何か出し物でもするとよいのでは。先生も行った方がいいと思う。そういうところでの先生の存在は大きい。先生の姿を見て信頼につながると思う。

◆ 青木委員

寄り道体験については、学校周辺の園で実施するのであれば、学生はこの周辺のことを既に知っていると思われるので、学生に何がやりたいのか聞いてみるとよい。

◆ 花村委員長

学校は、どうマインドセットして現場に人材を届けるかということに苦労している。本来なら実習で完結できれば良いが、それで保育士をやめるという学生が出てくるのをどうしようかというところまで検証しているというのは、他校にはない取り組みだと思う。その辺を事業者には理解して頂いて、どう一緒にマインドセットするかということも踏まえてご意見をいただきたい。

◆ 前重委員

人数は1施設に 2~3 人が一緒に行くのですか? <<←谷村より:はいそうなります>>受け入れ側としては、ここから就職に繋がりたいと思っているので、学生が知りたい情報を伝えられる場があるのは素敵なこと。実際に受け入れるとなった時に、職場に来ていただくのがいいのか?学校で座談会のような動画やスライドを活用して若手スタッフがぶっちゃけトークする等の仕組みの方が、移動もなく受け入れやすい。

◆ 藤田委員

他校の学生だが、授業の中で学んだ劇遊びなどを子どもたちの前で発表して、子ども達の反応を見てもらっている。子ども達もその時間を楽しんで、学生たちも緊張感や子どもとのやり取りを経験できるので、授業としていいなと思って受け入れている。実習の中では、休憩中とかに職員と話をすることがある。しかし、職場体験で対応するとすると、通常業務の片手間では出来ないのでは、そのための職員を1名配置しなくてはならない。となると、それは職場体験ではないのではないか。園でやる必要があるのか？他校では、学校に園の職員が出向いて座談会形式で話をすることがある。学生も学内ということでリラックスした様子でワイワイ話している。そこで興味を持った学生が、後日園に遊びに来る。この体験をどこに位置付けするのか。保育実習Ⅰで心が折れてしまった学生を保育実習Ⅱに向けてモチベーションを上げてほしいのであれば、実際の受け入れ園でないか、ここではよかったけどあそこの怖い先生のいる園にあの行かなければならないのか…。と、かえって逆効果。受け入れ側と学校との話し合いが重要。時間の設定についても検討の必要がある。子どもの午睡中では子どもとのかかわりは出来ない。保護者とのやり取りを体験するのであれば17:00過ぎの方が良いし、かえって朝の受け入れの時間の方がよいかも。同じ時間に2回来ても同じ姿しか見られないので、1回目と2回目でも時間を変える方が良いのか。園側が出来ることをリストアップして、その中でこれをしてくださいと頼まれたことを設定するということになる。学校が求めることが園で対応できるのかは、すり合わせが必要だと感じた。実習園だと評価されるという立場なので、実習園ではないところに行くのも大事な経験だと思う。

◆ 大河委員

非常に良い取り組みだなと思う。実施することも可能だと感じていますが、方法は考えるべき。目的の“やっぱり子どもが好きだった”よりは“やっぱり保育士になりたい”なのではないか。実習に行って心が折れて「もう保育士にはなりたくない」「しばらくは保育園も見たくない」という学生もいると思う。そんな学生にとって実習の後に保育園に行くのはハードルが高いのではないか。先生たちと一緒にやっていただくのがいいと思う。産学連携でオンライン授業(保育園内を ZOOM で見学)をしているが、保育士からとても勉強になるという声が上がっている。実施する時間は変えられないのであれば、例えば、園と学校とをオンラインとつないで、園の様子を生中継しながら子どもたちの様子を見たり、園にいる先生や学校に来て下さっている先生方と座談会のように話を聞きあってアドバイスをもらうことが出来る。さらに、画面を通して子どもたちの活動に参加(同じ音楽を流して一緒に踊ったり)して楽しい時間を共有することで、心折れてしまった学生も園の状況が見られて自分の悩んでいることも打ち明けられるようにすると、次の実習に繋がって、保育士になりたいという思いを起こさせてくれるのではないかと思う。

◆ 中山委員

目的が“前向きな就職先の選択に繋げる”となっているので、可能であれば園を別々にした方が良かった。職場体験までに産学連携を経験するし、保育実習も経験しているわけで、この後に教育実習があったり保育実習Ⅱもある。職場体験の実施について言えば、多様な園を見学する機会を学生に提供するという意味での職場体験であつたらどうか。心折れてしまった学生も行った園が実習先とは違ってここだったら働けそうかなと思えるようなチャンスを学生が得られれば良い。学校から歩いて行ける範囲となると我が園も対象になるかもしれない。うちだったらどう受け入れるかと考えたときに、まず担当を決めて色々なプログラムを考えなければならない。メインは学生たちが何を欲しているかということに対してその回答できるように考えることになる。職場について様々な見学機会がある事はいいことだと思うので、是非やっていただきたい。実施の方法については、先生方の意見を参考に検討されるとよいと思う。

<「今後の産学連携」について>

ここで終了時間となり、本議案については改めて機会を作ることとなった。

→ その後の判断で、メールでご意見を頂くこととした。

最後に請川委員よりまとめとして全体を通した感想をいただいた。

◆ 請川委員

毎回思いますが、大変色々な工夫をされていてこちらも勉強になる。実習先に行くと職員募集しているが誰かいませんかと声を掛けられることが多いので、うまくマッチングさせて学生を送り出したいと思っている。養成校として同じ考えで行きたいと思う。

以上、散会となった。